令和元年度　横浜市世界を目指す若者応援事業

（個人留学による帰国報告）

●氏名

H.R さん

●留学先

国/都市：アメリカ合衆国/ジャスパー

外国の高校：Curry High School

●留学期間

2019 年 7 月 27 日～2020 年 3 月 25 日

●留学先での活動、留学で学んだこと

私は、2019 年より約８か月アメリカ・アラバマ州にてジェンダーを研究しました。トビタテ！日本代表高校生として現地では LGBT コミュニティと連携をとったり、アンケート調査等を行い、帰国後のビジョン育成に努めました。

私が最も実践したいアクションは、ジェンダーフリートイレの導入です。ジェンダーフリートイレとは、すべての性に対応したトイレとして欧州を中心に近年注目されている新しいトイレの在り方です。

この構想に至る理由の１つに、トランスジェンダーの人たちの多くが共通して抱える悩みとして男女トイレの選別が挙げられるからです。また DSD（性分化疾患）などを抱える方も日本には多く存在します。男なのに月経がある、など身体的な疾患を持つ人にとっても同じ悩みが挙げられます。トイレは日常生活で常に利用するものであり、SDGs（持続可能な開発目標）の６番に挙げられています。さらに５番にはジェンダーについての記載もあり、今回のこのプロジェクトの成功は大きな力を与えると信じています。

当初の予定であれば、これらのデータをもとに空の玄関・羽田空港へジェンダーフリートイレの導入を行う予定でした。しかし、COVID-19 の蔓延により空港が対応に追われ話し合いを設けることが難しくなってしまいました。

横浜市はジェンダーや多様性といった面に関して先進的な取り組みを行っています。国内外から多くの人が集う街、YOKOHAMA には様々な観光地や公共施設があり、ジェンダーフリートイレの導入は近年日本で重要視され始めた LGBT 理解の先駆けとなることを信じています。

帰国後は羽田空港をはじめ、多くの人が訪れる場所にジェンダーフリートイレを導入するプロジェクトを立ち上げ、クラウドファンディングなどを通して実現に向けて邁進していきたいと思っています。

また、現地では日本の文化交流として折り紙で紙風船を作ったり、切り絵や福笑いなど子供から大人まで楽しめる遊びをホストファミリーや教会、学校にて行いました。

日本から持参した餅を焼いてお正月に食べたり、味噌汁やおせんべいなども楽しんで頂きました。高校の解剖学の先生が、60 年ほど前に横浜に住んでいたため今と昔の横浜の街並み、文化を対比させてお話しすることができたのは、とても貴重な経験でした。さらに解剖学の授業内でクラスメイトと書道を行い、全員で「横浜」と書いたのも良い思い出です。

高校生での留学は、良い意味でも悪い意味でも自分に刺激を与えます。この８か月で親元を離れて己の力で生きる「自立」、そして自らを律する「自律」の２つを学ぶことができた留学は自分にとって将来への大きな糧になったと思います。

最終日にホストしてくださった家族にプレゼント